

城陽市障がい者自立支援協議会

第 10 回 聴覚言語障がい支援部会報告書

報告者 部会長 聴覚障害者生活支援センター は一もにい 山崎 伸治

標記について下記のとおり報告します。

| | |
|------|--|
| 日 時 | 平成 24 (2012) 年 10 月 2 日 午前 10 時～12 時 |
| 場 所 | 城陽市役所 第 1 会議室 |
| 出席者 | 城陽市福祉課 相談支援事業所・は一もにい 手話通訳者の会・要約筆記奉仕委員会・手話サークル・要約筆記サークル 城陽ろうあ協会・城陽市難聴者協会 |
| 検討課題 | 全体会の報告 『支援マップ』の作成に向けて |

【議事録】

1. 9/10 障がい者自立支援協議会「全体会」

*全体会に参加した委員（当事者）の感想。

- ①市の災害に対する備えがわからないので不安がある。
- ②民生児童委員は地域の障がい者の情報をすべて知っていると思ったが、障がい者本人が開示した人のことしかわからないことがわかった。
- ③市内の聴覚障がい者（手帳所持）は 320 人ぐらい。当事者団体に入っている人は 1 割。それ以外の人へ災害時にどんな支援ができるか。⇒災害時の要配慮者の支援について、現在社協と市が連携して協議を進めているとのこと。

2. 支援マップの作成に向けて

①前回の会議から今日までに各団体で話し合った内容について報告

難聴者協会／協会での話し合いはまだ実施していない。

市議会に傍聴に行き、市が配布したハザードマップはあまり活用されていないことがわかった。残せるような内容にしたい。障がい者の名前をマップに載せるとか、民生委員の家はマップに載せても良いと思う。

ろうあ協会／明後日の役員会で話す。

要約筆記サークル／被害状況がわかるのは数日後。まずは自助、次に共助、最後に公助だと思う。

災害が起きていることはその場所でしかわからない。最終的な公助の場面で、避難所が開設されればそこで支援できる。

手話サークル／災害関連の手話単語学習をした。

②支援マップ作成に関する意見

- ・災害時の支援ができる情報として、支援マップに障がい者、支援者の家や名前を掲載してはどうか。
- ・支援マップは、当事者団体に入っている人だけでなく、城陽市全体の聴覚障がい者や聞こえに不自由を感じている人へ幅広く情報を載せることが目的なので、個人の自宅や名前を掲載することはなじまない。
- ・宇治ではサークル員と聴覚障がい者が自宅を確認してどこに住んでいるのか知っている。
- ・特定の人に支援される、支援するためのマップではなく、災害時にどういう支援ができるか、その内容を載せることが目的。
- ・オールマイティな地図作りが必要。個々の支援は別の課題。

③部会の会議とは別に、次回 支援マップの作業日を設定する。

10月24日（水）9：30～

④その他

* 静岡県の聴覚障害者情報センターで作成された「災害時の聴覚障害者支援」「聴覚障害者のための防災マニュアル」と、東京都の荒川区で障がい者や外国人などコミュニケーションの支援が必要な方へ向けた「コミュニケーション支援ボード」を部会で紹介した。

* 小学校の放課後子ども教室について

今年、久津川保育園「あそびの広場」に出前講座をしたことがきっかけで依頼があった。今後もこのような依頼があった場合、現在は市社協が窓口で福祉体験学習の講師派遣を行っているので、依頼内容や派遣方法について整理していく。